

国 語

1 教育課程研究協議会の経過（平成11年度～14年度）

平成11年度からの教育課程研究協議会国語部会においては、今回の改訂の趣旨の徹底や内容の理解を図ることを目的として、「新教育課程編成の手引」を用いて説明するとともに、協議を行った。

平成11年度からの手引の概要、説明及び協議の概要は次のとおりである。

	手 引 の 概 要	説 明 及 び 協 議 の 概 要
平成11年度	1 科目構成 2 改訂の基本方針 3 改訂の内容 (1) 目標 (2) 各科目 4 質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ○科目構成の変更と「国語表現Ⅰ」及び「国語総合」の2科目が必修科目として設定されたことの確認 ○教科・科目の目標の改善にあたり重視された視点の確認 ○「伝え合う力を高める」が目標に位置付けられたことの確認 ○主な改訂点の確認 <ul style="list-style-type: none"> ◇領域構成の変更（3領域1事項）及び言語活動例の提示 ◇指導時数の目安の提示◇教材◇古典の指導 ○各科目ごとの目標及び内容の構成と取扱いの確認 ○必修教科目を設定する上での配慮事項について ○古典に関する指導の取扱いについて ○各科目にわたる内容の取扱いの特色について
12年度	1 全体的事項 2～6 各科目	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科の目標や具体的事項の改訂で重視された点について <ul style="list-style-type: none"> ◇伝え合う力の育成◇社会人として必要な言語能力の育成 ◇古典に親しむ態度の育成◇選択履修の柔軟化 ◇領域構成の変更◇言語活動例の提示 ○国語科の新教育課程の編成及び実施上の課題について <ul style="list-style-type: none"> ◇社会人として必要な言語能力の育成 ◇言語活動例の活用及び指導時数の確保 ◇読むことの指導の改善◇科目の選択、科目の構成 ◇古典指導の改善◇情報活用能力の育成 ◇「総合的な学習の時間」に生きる言語能力の育成 ○各科目ごとの指導上の留意点について
13年度	1 国語科の教育課程の編成 2 指導計画と内容の取扱い 3 指導計画の作成 4 質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な考え方の確認 <ul style="list-style-type: none"> ◇目標を踏まえた教育課程の編成◇科目選択の弾力化 ◇領域構成と科目設定 ○配慮すべき事項の確認 <ul style="list-style-type: none"> ◇読むことの指導の改善◇古典に親しむための指導 ◇「総合的な学習の時間」への発展 ○特色ある教育課程の編成についての確認 <ul style="list-style-type: none"> ◇科目の履修順序◇学校設定科目の活用 ○指導計画作成上の留意点の確認 <ul style="list-style-type: none"> ◇総合的な言語能力の育成◇情報通信ネットワーク等の活用 ◇言語に関する事項の指導◇主体的な古典学習の推進 ○内容の取扱いの確認 <ul style="list-style-type: none"> ◇「国語総合」における指導時数の目安◇常用漢字の指導 ◇教材の選定◇評価方法の工夫◇言語活動例を通じた指導 ○指導計画の作成例（「古典講読」）の提示 ○「国語科」と「総合的な学習の時間」の関連について ○学校設定科目を設定する場合の留意点について
14年度	1 国語科学習指導の改善 2 評価の工夫 3 学習指導案の作成 4 質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導の改善の視点の確認 ○効果的な学習指導を行うための留意点の確認 <ul style="list-style-type: none"> ◇各領域の調和のとれた学習指導◇「国語総合」の学習指導 ◇言語活動例を活用した学習指導◇古典の学習指導 ◇読書力を高め、情報を活用する能力を育てる学習指導 ○評価の基本的な考え方の確認 ○評価における配慮事項の確認 <ul style="list-style-type: none"> ◇5つの観点ごとの評価の在り方 ○「国語総合」の学習指導案の提示 ○言語活動例を具体化する場合の留意点について ○学校図書館の活用の在り方について

2 学習指導の改善・充実

国語科の学習指導の改善・充実に当たっては、生徒一人一人の特性を十分理解し、それに応じた指導方法や指導体制の工夫改善を図るとともに、指導や学習に生きる評価の在り方を一層工夫する必要がある。

(1) 個に応じた指導の工夫

生徒はそれぞれ能力・適性、興味・関心等が異なっており、各科目の目標を実現するためには、生徒が学習し身に付けている国語の力を的確に把握した上で、それぞれの生徒に応じた適切な指導方法を工夫していくことが必要である。

指導方法については、従来から取り込まれてきた一斉指導のほか、個別指導やグループ別指導といった学習形態の導入、学習内容の習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心に応じた課題に取り組む学習などのほか、教材・教具の工夫や開発、コンピュータ等の教育機器の活用など、生徒の実態や指導の場面に応じ、効果的な方法をとることが必要である。

国語科における個に応じた学習指導の観点としては、次のようなことが考えられる。

ア 発展的な学習や補充的な学習の充実

個に応じた指導の充実を図るためには、内容の理解をより深める学習を行ったり、さらに進んだ内容についての学習を行ったりするなどの発展的な学習や、生徒の理解や習熟の状況等に応じ、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための補充的な学習を充実させることが必要である。

発展的な学習や補充的な学習を学習指導計画に位置付ける場合には、個別指導やグループ別指導、習熟度別指導等と一斉指導との調和的な展開に配慮するとともに、教科、科目の目標や内容の趣旨を逸脱したり、生徒の負担過重となったりすることのないように、指導内容を適宜工夫することが重要である。

その際、学校設定科目を活用することも効果的である。基礎的な科目としての「国語基礎」や「国語一般」、発展・深化を目指す科目としての「作品購読」や「創作国語」など、生徒や学校の実態等に応じて、学校設定科目の必要性の有無、必要と判断した場合の科目の名称、目標、内容、単位数等について、様々な視点から検討することが大切である。

イ 生徒の興味・関心に対応する多様な教材の開発

同一の教材を学習したとしても、生徒一人一人の課題は多様なものが予想される。そのため、生徒が、一層興味や関心をもてる教材などを開発したり、複数の学習方法や資料などを提示したりすることが大切である。

例えば、「国語総合」の「書くこと」の領域における「題材を選んで考えをまとめ、書く順序を工夫して説明や意見などを書くこと。」や、「読むこと」の領域における「考えを広げるため、様々な古典や現代の文章を読み比べること。」、また「現代文」における「自分で設定した課題を探求し、その成果を発表したり報告書などにまとめたりすること。」という言語活動の具体化を目指した教材を開発することは、生徒一人一人の多様な課題に対応することができ、個に応じた指導を充実するために効果的である。

(2) 指導と評価の工夫・改善

学習指導の工夫・改善に当たっては、教科・科目の目標を踏まえ、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域の学習指導が調和的に行われることが大切である。そのため、各領域ごとの指導時数を確保した指導計画を作成することが必要となる。

また、評価の工夫・改善に当たっては、指導や学習に生きる評価の在り方を一層工夫し、評価の観点及びその趣旨を踏まえ、科目の目標や各学校での指導内容に即した評価規準を適切に設定することが求められている。

ア 年間指導計画の作成

学習は、生徒の実態に即し、生徒の言語能力を意図的・計画的に伸ばし高めるものでなければならない。したがって、生徒の言語能力の実態を的確に把握した上で、学習の段階性や系統性等に配慮しつつ、評価規準・評価方法、指導内容等を具体的に配列して、単元を構成することが大切である。そのため、年間指導計画を作成するに当たっては、構成する各単元の目標や指導内容等が、その科目の目標や指導事項、言語活動例等のどこを踏まえ、また、どのように関連しているのかを明確にし、あわせて各領域ごとの指導時数を示す必要がある。

各領域ごとの指導時数、評価の観点及び評価規準を明示した様式として、「国語総合」の年間指導計画の例（一部）を以下に挙げる。

「国語総合」年間指導計画

単元名 (時数)	単元の目標	領域別指導事項			言語活動例	評価規準	評価方法	学習活動 (指導内容)	評価の観点					総合的な学習の時間 とのかわり
		A 話すこと 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと					関心・ 意欲・ 態度	話す・ 聞く 能力	書 く 能 力	読 む 能 力	知 識・ 理 解	
表現スピーチ (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手が理解できるように、目的や場面に応じて効果的に話す。 ・ 相手の話を的確に聞き取る。 ・ 目的や場面に応じた話し方や言葉遣いを身に付ける。 	⑤ イ			スピーチ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的や場面に応じて効果的に発表したり、的確に聞き取ったりしようとしている。 ・ 聞き手が理解しやすいように声の大きさ、早さを工夫して話している。 ・ 話の内容を的確に聞き取っている。 ・ 目的や場面に応じた話し方や言葉遣いを身に付けている。 	行動観察 チェックシート	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマについて、聞き手に分かりやすいように表現や構成を考えてスピーチ原稿を書く。 ・ 原稿をもとに、声の大きさ、早さに注意してスピーチする。 ・ チェックシートで自己評価及び相互評価を行う。 	○	○			○	プレゼンテーション
古文入門 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古文を読んで、表現の意図や特色をとらえる。 ・ 音読を行い、古文の独特のリズムに慣れる。 ・ 歴史的仮名遣いや文語文法について理解する。 			⑥ ウエ		<ul style="list-style-type: none"> ・ 古文を読んで、表現の意図をとらえようとしている。 ・ 古文独特のリズムに慣れて音読している。 ・ 歴史的仮名遣いや文語文法について理解している。 	行動観察 ワークシート 疑問点の発表 ノート点検 ペーパーテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代文と古文の違いを確認する。 ・ 五十音図を示し、歴史的仮名遣いについて学習する。 ・ 繰り返し音読する。 ・ 辞書や文法書を用い、文語文法について学習する。 ・ 文語のきまりに注意し口語訳する。 	○			○	○	

※ 「領域別指導事項」の丸数字は各領域の配当時数、片仮名は各領域の指導事項である。

イ 評価規準の設定と評価方法の工夫

評価規準や評価方法は、指導の上からも学習の上からも、できるだけコンパクトであることが望ましい。評価規準の設定が複雑であったり、評価方法の数が多かったりすれば、授業自体が評価のための授業になってしまうからである。このため、これらが基づく単元の目標も、数少なく設定することが重要となる。

ウ 各科目の評価の観点

国語科の評価の観点は、学習指導要領における目標、内容の改定などを考慮して4観点から5観点到改められたことを踏まえ、各科目の評価規準の設定についても、科目ごとの評価の観点とその趣旨を基に、各学校において、さらに具体的な規準を設定する必要がある。

その際には、特定の観点、例えば、ペーパーテストを重視するあまり、読む能力や知識・理解の観点到偏らないように設定することが重要である。単元や学期あるいは年度を通じて、指導と評価が、5つの観点から見てバランスよく行われるよう、評価規準の作成、評価方法の工夫・改善を進めることが必要である。

国語科の各科目の評価の観点是、以下のとおりである。

5 観点 \ 科 目	国語表現Ⅰ	国語表現Ⅱ	国語総合	現 代 文	古 典	古典講読
関心・意欲・態度	○	○	○	○	○	○
話す・聞く能力	○	○	○	○		
書く能力	○	○	○	○		
読む能力			○	○	○	○
知識・理解	○	○	○	○	○	○

※注 ○印は、各科目の評価の観点が示されているもの。

(教育課程研究センター「平成14年度教育課程研究指定校調査研究資料」に基づいて作成)

上記の表には、科目によって評価の観点が示されていないものがある。例えば、「古典」や「古典講読」には2観点が示されていない。このことは、「古典」や「古典講読」は、「読むこと」を中心に学習指導の目標とする科目であるが、学習活動としては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」も含めた多様な言語活動を通して古典に接することを表わしている。

エ 指導と評価の一体化

学校の教育活動は、計画、実践、評価という一連の活動が繰り返されながら展開されるものであり、指導と評価の一体化を図るとともに、学習指導の過程における評価の工夫を進めることが重要である。また、評価が生徒の学習の改善に生かされるよう、日常的に生徒や保護者に学習の評価を十分に説明し、共通理解が得られるようにすることが大切である。そのためには、授業のねらいや指導内容等を生徒や保護者に事前に公開することが必要となるが、その方法の一つとしてシラバスの作成があり、一層の活用を図る取組を進めることが重要である。

(3) シラバスの活用

科目「国語表現Ⅰ」のシラバス案

教科名	国 語		科目名	国語表現Ⅰ	
科目の目標	国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。				
履修学年	1学年	学科・コース	普通科		
単位数	2単位	授業形態	一斉授業・グループ別授業		
教科書	〇〇〇	副教材等	〇〇〇		
1 学習の目標					
(1) 国語を適切に表現し的確に理解する力を伸ばすこと。 (2) 伝え合う力を高め、思考力を伸ばし、言語感覚を磨くこと。 (3) 進んで表現する姿勢を身に付けること。 (4) 社会生活に役立つ表現力、理解力と社会生活を充実させる態度を身に付けること。					
2 学習内容と進め方					
(1) 自分の考えをもって論理的に意見を述べたり、相手の考えを尊重して話し合ったりすること。 (個人やグループで、スピーチ、発表、討論などを行うことを中心に進めます。) (2) 情報を収集、整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめること。 (観察や調査の記録、報告、説明などの文章を作成することを中心に進めます。) (3) 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。 (電話、感想、手紙、案内、紹介、連絡などの文章を書くことを中心に進めます。) (4) 様々な表現についてその効果を吟味し、自分の表現や推敲に役立てること。 (身近にある様々な表現効果の吟味や自己評価、相互評価などを中心に進めます。) (5) 国語の表現の特色、語句や語彙の成り立ち及び言語の役割について理解を深めること。 (国語の音声、語句、文の構造、語彙の種類、漢語や外来語の歴史的な事情などについて、演習プリントや小テストを用いて進めます。)					
3 学習の留意点					
(1) 常に主体的に学習に取り組むことを心がけ、何事に対しても常に自分の考えをもって積極的に表現する姿勢を持ちましょう。 (2) グループ学習や発表会及び報告会の際には、他人の意見や話を尊重して聞き、協力して行いましょう。 (3) 社会の動きに敏感になり、様々な情報を収集し活用する習慣を身に付けましょう。 (4) 様々な表現技巧や語句・語彙について繰り返し学習し、日常の言語活動に活用しましょう。 (5) 自己評価及び相互評価は客観性を大切に、公平に行いましょう。 (6) 課題は期限までに確実に提出しましょう。					
4 評価の方法					
(1) 「関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「知識・理解」の4つの観点で、学習の状況を総合的に評価します。 ・学習活動に対する取組姿勢（発表の仕方や内容、学習活動への参加態度等） ・提出された課題の内容（演習プリント、自己評価・相互評価シート等を含む） ・小テスト及び定期考査の結果 (2) 学年末の成績は、各学期の成績を総合して評価します。					
5 授業計画					
月	単 元	具体的な学習内容	評価の観点		考査等
4	◇スピーチをしよう ・自己紹介文の作成 ・スピーチの原稿作成 ・自己紹介文発表会	◎自分のことについてよく考え、他人にわかりやすく伝える力を育成します。効果的な話し方を工夫するとともに、聞き手としての的確に聞き取る力を身に付けます。	【関心・意欲・態度】 ・文章を書くとき、目的や相手に応じた言葉遣いや表現となっているかを常に確かめながら書こうとしているか。 【話す・聞く能力】 ・スピーチをするとき、自分の意見の根拠を簡潔に分け、考えの順序をたどって説明したり、結論をまとめて表現したりするなど、相手に分かりやすく話す工夫をしているか。		自己評価・相互評価シート 発表会 提出課題
5			【書く能力】 ・手紙文を書くとき、相手に応じた用語や待遇表現の選択などにおいて言葉遣いを工夫しているか。		
6	◇お世話になった人に手紙を書こう ・手紙の書き方 ・敬語表現の練習	◎相手に応じた適切な言葉遣いや文体など、表現を工夫する力を身に付けます。	【書く能力】 ・手紙文を書くとき、相手に応じた用語や待遇表現の選択などにおいて言葉遣いを工夫しているか。		提出課題 小テスト（手紙文の構成・敬語表現の確認）
7					

8	◇古典から様々な表現を学ぼう (I) ・四字熟語の学習 ・故事成語の学習	◎国語便覧等を使って様々な四字熟語や故事成語に触れ、語句や語彙の成り立ち及び言語の役割について理解を深めます。	【知識・理解】 ・国語の表現の特色について理解を深めているか。 ・語句や語彙の成り立ちについて理解を深めているか。	演習プリント 小テスト (四字熟語・故事成語)	前期期末考査
	◇電話で正確に伝えよう ・模擬会話	◎見えない相手に簡潔で要領のよい心の通った通話をする力を身に付けます。	【話す・聞く能力】 ・通話をするとき、相手や目的、場の状況に応じて、待遇表現の選択や音声の使い方などを工夫しているか。	自己評価・相互評価シート	
	◇調べて発表しよう ・テーマの設定 ・報告書の作成 ・発表原稿の作成 ・報告会	◎自分が興味関心を持った事柄について、テーマを設け、テーマに関する情報を収集、整理し、正確かつ簡潔に伝える報告書にまとめます。また、報告会で他人にわかりやすく説明する能力を養います。	【話す・聞く能力】 ・観察したことや調査したことを発表するとき、課題となる事柄について、事実を資料に当たって調べて整理し、自分の意見を述べているか。 【書く能力】 ・題材を選ぶとき、印刷物、マス・メディア、情報通信ネットワークなどから収集した情報の内容を的確に理解したり、情報の正誤、適否などを判断したりして、適切に選択、整理しているか。	自己評価・相互評価シート 提出課題 (収集資料) 報告会 ノート提出	
10 11	◇通信文を作ろう	◎他者への連絡文や案内文など、社会生活に必要な情報伝達能力を養います。	【書く能力】 ・目的や場に応じた言葉や文章形式の選択、用いる媒体に応じた文章の種類や形態の選択など、文体を工夫しているか。	自己評価・相互評価シート 提出課題 (通信文)	前期期末考査
12	◇古典から様々な表現を学ぼう (II) ・表現技巧の学習	◎古典の名文から様々な表現技巧を学び、効果的な表現方法についての理解を深め自己の表現技術を向上させます。	【知識・理解】 ・現代社会における言語生活の在り方や言語表現の役割などについて理解を深めているか。 【関心・意欲・態度】 ・目的や場に応じて言葉遣いや文体など表現を工夫したり、様々な表現についてその効果を吟味し自分の表現や推敲に役立てたりして、話したり文章にまとめたりしようとしているか。	演習プリント 小テスト	
	1 2	◇討論をしてみよう ・テーマの設定 ・グループ別の話し合い ・討論	◎一つのテーマのもと、肯定派と否定派に分かれて議論をします。自分の考えを論理的に述べる力や情報を収集し、説得力のある論理を展開する力、相手の考えを尊重して話し合う姿勢を学びます。	【話す・聞く能力】 ・討論をするとき、相手の意図を確かめるために質問したり、相手の考えの要点をメモしたりして、相手と自分の共通点や相違点について考えながら聞いているか。 【関心・意欲・態度】 ・相手の立場や考えなどに配慮しながら自分の考えを相手に伝えたり、論点の明確さや主張の妥当性などに注意しながら相手の話を聞いたりしようとしているか。	
3	◇意見文を書こう ・小論文	◎各自でテーマを設定し、意見文などの論理的な文章を書く能力を養います。	【書く能力】 ・書くために必要な情報を収集、整理しているか。 ・収集、整理した情報を正確かつ簡潔に伝える文章にまとめているか。 ・書くことに役立つために、様々な表現についてその効果を吟味しているか。 【関心・意欲・態度】 ・目的や場に応じて言葉遣いや文体など表現を工夫したり、様々な表現についてその効果を吟味し自分の表現や推敲に役立てたりして文章にまとめようとしているか。	自己評価シート 提出課題 (収集資料) 小論文 ノート提出	後期期末考査